

# 資料編

Contents  
2.

## 事業の方針の検討

- ・関係団体へのヒアリング
- ・市民ワークショップ

# ステーキホルダーからの意見(1/4)



## 来訪者と美濃焼との接点が少ない

- 卸機能に特化していると消費者との接点は非常に限定的。(卸センター)
- 土岐市に馴染みのない人は美濃焼イベントをどのように巡るべきかわからないと思う。(泉工組)



## Uターンのきっかけになる原体験の場がない

- 将来的に帰属意識を高めてもらうためには、高校生世代への「アプローチ」が重要。ただし地元愛着醸成の場ではなく、高校生の経験になるような場に。(yoitoki)



## 美濃焼が身の回りにありふれて感度が鈍い

- ありふれているため、美濃焼の魅力や価値について鈍感。また、今の子どもたちはあまり陶器を使わない日常も。(おかみ塾)
- 当たり前身の回りにあるもの。(土岐商)



## 学校で得られない体験ができる場所がない

- 今の土岐の子どもたちにも、学校ではできない体験を、ここでして欲しい。(飲食店組合)
- 小学校での体験とは異なる「その場で作ってその場で使う」美濃焼体験も面白い。(土岐商)



## アウトレット等直行直帰の交流人口が多い

- 1泊2日のキャンプで直行直帰ではなく、長期滞在して欲しい。(卸センター)
- 市内でしっかりお金を落として土岐市を堪能して帰ってもらえるかがカギ。(商工会議所)



## 子育て世代が時間を過ごす場所が少ない

- ママたちは記念日設定が好きなので、素敵な写真を撮ってもらえる拠点にして欲しい。(mama's café)
- 公園以外に子どもを遊ばせる場所がないので、遊べる定番が欲しい。(飲食店組合)

# ステークホルダーからの意見(2/4)



## フェスなどのイベント開催場所が少ない

- 野外フェスなどのイベントは、市の施設であれば警察の許可等の面で利便性が高まる。(商工会議所)
- フェスは中津川などで行うしかないので、土岐で行うことができると良い。(JC)



## 市民が誇れる土岐らしい●●、がない

- 土岐市ならではの施設が欲しい。そういう施設があれば地元の人には自慢したくなる。(yoitoki)
- 土岐市にしかない拠点、土岐市でしかつくれない拠点であって欲しい。(おかみ塾)



## 宿泊施設が少ない

- 野外イベントの開催候補地としては魅力的だが、宿泊施設が少ないことが課題。(ひととき)
- 「滞在時間が長く滞在頻度が高い」交流人口を増やす方向性が望ましい。(卸センター)



## 土岐の食(自然薯等)の販路が未開拓

- キャンパー向けに手軽な食材セットや自然薯の真空パックを提供することは可能。(飲食店組合)
- 手軽にBBQをしてもらう際に地産地消ができるの良いのでは。(mama's café)



## 土岐市民は高付加価値化や収益化が苦手

- 高付加価値化を実現できる拠点となって欲しい。日本一の陶磁器生産量を誇るまちとはいえ、地域内からは醸成しにくいいため、収益化可能なことを外からのインプットを通じて地元に見せる必要。(yoitoki)



## 人が立ち入らないと山林が荒れる

- 泉や定林寺ならではの地域性、地域資源を生かすことが重要。山の自然植生に配慮する必要があるが、人が入らなくなると荒れてしまうため、一定の立ち入りが必要。(泉工組)

## ステークホルダーからの意見(3/4)



### 交通量の増加に耐えられない

- 集客力の高いアウトレットと土岐ICで来訪者を挟み撃ちする構図にしたいが、道の狭さがネックのため、交通量の増加に備えて道路の整備が必要。(yoitoki)



### オープンファクトリーに個別対応しにくい

- オープンファクトリーは現状少なく、平日の繁忙期にバラバラと来られても困る。(泉工組)
- 窯元からすると平日で1~2組の来訪者が来るのも業務に差し支える。(yoitoki)



### 貧困の子どもたちが取り残されてしまう

- 高規格のキャンプ場ができてても家庭環境の問題で体験できない子どもたちも多い。夏休みの間にイチゴ狩りの経験とか友達に話せる体験ができない子どもたちも多い。(mama's café)



### 1プロセスだけでは美濃焼を理解できない

- 美濃焼のプロセスを体感するには1回の訪問では難しいので複数回訪れて欲しい。(おかみ塾)
- 本格的な美濃焼体験には、複数回に分けて足を運んでもらうような仕掛けが必要。(泉工組)



### 美濃焼の一部工程の担い手が足りない

- 美濃焼産業は工程別に分業体制が敷かれているが、各工程で後継者不足が深刻である。石膏型を用いた技法であるガバ鋳込みは特に深刻。(おかみ塾)



### キャンプ場整備の効果には懐疑的

- キャンプ場を整備して土岐市が本当に豊かになるか、潤うかは懐疑的。例えば企業誘致をしたほうが土岐市にとってはプラスになる可能性もある。(観光ガイドの会)

## ステークホルダーからの意見(4/4)



### キャンプという言葉に疎遠な方も多し

- キャンプ場を整備してどれくらいの需要があるのか。高齢化社会でハードルも上がった印象。(泉工組)
- ママたちはキャンプしない人、キャンプと聞くと少し敬遠してしまう人も多い。(mama's café)



### 保護すべき自然植生が荒らされる

- シデコブシ、ハナノキ、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）など、自生している地元の植生を大事にすべき。(観光ガイドの会)



### 新拠点整備により地元生活空間が乱される

- 定林寺湖一帯は、この地域で育った人にとっては思い出の地であり、開発されることへの不安や懸念がある。自然資源に配慮して整備していただければ幸い。(泉工組)



### 権利者との間で争いが生じるリスク

- マツタケが採れる山は入札による権利者がいるため要注意。初めての方が山に入ると確実に迷子になるので、土地勘がある者のアテンドが必要。(泉工組)



### 気軽に集まれる場所が少ない

- 企業研修や地域団体が利用できる集会所のような場所が少ない。(ひととき)
- 会議で使用したり、県外から仕事に来た人が利用できるスペースがマンネリ化している。(JC)

# 市民ワークショップによる意見

## WS 内容

- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンで起こしたいこと、やりたいこと
- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンによって起きる可能性のある問題を解決すること

### team

## A

- 「聖地」にする。例えば「恋人の聖地」「ロケ地聖地巡礼」思い出づくり
- 子ども野生計画。子どもをターゲットにしたキャンプ場
- キャンプはもちろん！！子どもの学べる場や遊べる場をつくりたい！！

### team

## D

- 美濃焼の魅力を伝えたい！食器として...作陶体験の思い出づくり...地域の窯元さん...ショップへ呼ぶ！世界に開かれた土岐市
- 集客、イベント企画、運営
- アスレチック×美濃焼 / 市民以外も訪れるイベントを立ち上げる

### team

## B

- GW交通マヒの解消。道路渋滞の緩和
- 移住定住
- 新しい働き方ができるように。時間や場所にとらわれない

### team

## E

- 土岐の自然を生かした活動(ネイチャーゲームを有名に！)自然を通じて人がつながる
- 自然環境を生かしたレクリエーションゾーンを
- 湿地の保護 / 森・湿地の整備 / 貴重種の保護・観察会

### team

## C

- キャンプファイヤーフェスイベント。毎月10日(トキ)に行われるマルシェ
- キャンプ場を利用した来客イベント開催！

### team

## F

- 自然を残したい。人が集まっても共存(人・自然)できる体制
- 自然の草木エリアと観賞用エリアを入れてゆったりスペース自然の草木の学習 / 土岐の自然の結合をつくる
- 人・自然・動物の共存

# 市民ワークショップによる意見

## WS 内容

- ✓ どんな泉北部レクリエーションゾーンができた？
- ✓ 泉北部レクリエーションゾーンによって、どんな土岐市になったのか？

## A：アウトドア部による子育て自然体験

自然を生かした遊びやアスレチック、自炊体験など、子どもの聖地となるアウトドア部が活動している。

## B：ワーケーション推進&日中散歩

wi-fi 整備やオンライン会議環境整備により、ワーケーション化が図られ、キャンプ利用者だけではなく、一般利用者がイヌやネコとの散歩を楽しんでいる。

## C：マルシェ×エクササイズ×キャンプ ファイヤー

朝マルシェが開催され、様々なお店がテント出店されている。  
朝マルシェと同時にエクササイズも開催され、夜はキャンプファイヤーが行われている。

## D：美濃焼の多目的施設

チェーンソーアートやボルダリング、サバイバルゲームなど、多目的にアートや遊びを楽しめる美濃焼で作られた施設ができています。

## E：ヒメタイコウチゆるキャラ & シデコブシの育成

ヒメタイコウチが土岐市のゆるキャラとなり、子どもがシデコブシの種を植えて、定期的にレクリエーションゾーンでの自然体験を楽しんでいる。

## F：手ぶらでさとやま自然体験

手ぶらで訪問して、季節毎の食や生き物、植物、遊びなどの、里山自然体験が行われている。

# 市民ワークショップの様子



# (参考) アウトドア会議の科学的意義について

## — 慶應義塾大学大学院前野隆司研究室との共同検証結果の発表 —

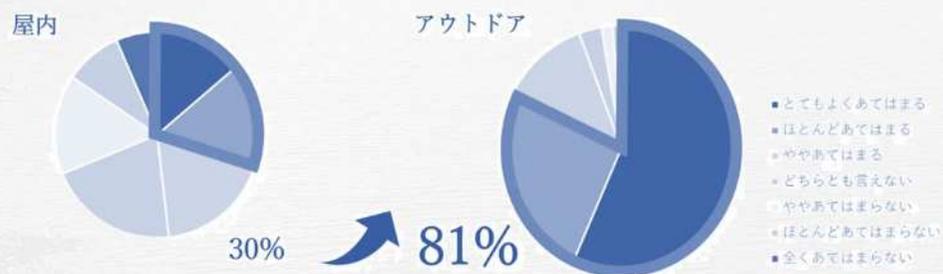
屋内会議とアウトドア会議で、「ワクワク」「リラックス」の感情状態を確認したところ、アウトドア会議では感情状態が大幅に高まっていることがわかった。こうした感情面の高まりにより、人間性の回復の土台がつけられている。

### 感情状態の変化

図1. 「ワクワクする」の屋内とアウトドア会議での変化



図2. 「リラックスする」の屋内とアウトドア会議での変化



### 参加者の声

〰〰

- ✓ 「開放的な自然の中で話すことで、普段の閉塞的なオフィスでは得られないワクワクや楽しさを感じた」
- ✓ 「ゲーム感覚でテントを建てるのがとても楽しかった。伝達の大切さを実感できた」
- ✓ 「普段は壁に囲まれて作業することが多いが、アウトドアでの作業は感情が豊かになり、いつもと違った話し合いが生まれたと感じた」

〰〰

- ✓ 「開放感を味わいながら、終始和やかな雰囲気での話し合いを楽しめた」
- ✓ 「開放的な環境で、集中するときとリラックスするときを上手く切り替えることができた。チームの意見交流も活発だった」
- ✓ 「外の環境でリフレッシュしながらできたので、みんな普段より良いアイデアが浮かんでいたと思う」

# (参考) アウトドア会議の科学的意義について

## — 慶應義塾大学大学院前野隆司研究室との共同検証結果の発表 —

屋外で会議を体験した人の83%が「チームの一員だと感じる」、  
78%が「主体的に参加できている」と回答

図3. 主体性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化

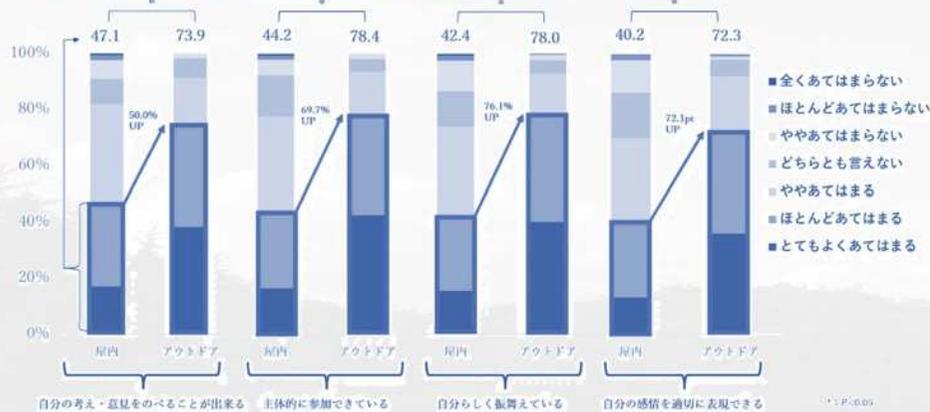
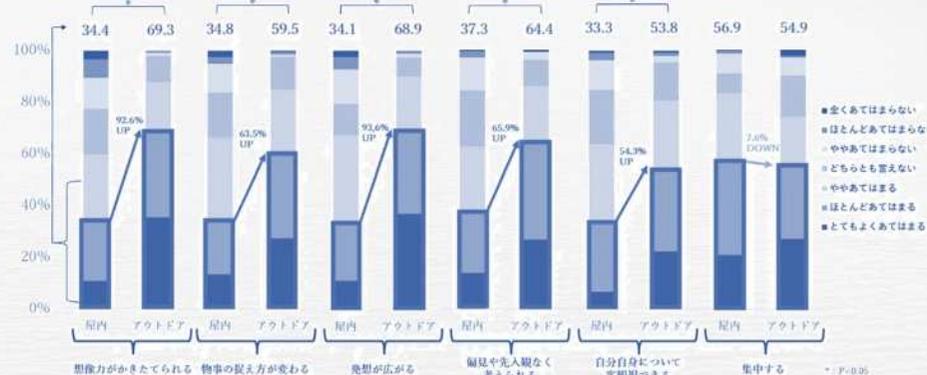


図4. 関係性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化



図5. 創造性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化



# 七輪・焚火台を使った美濃焼体験

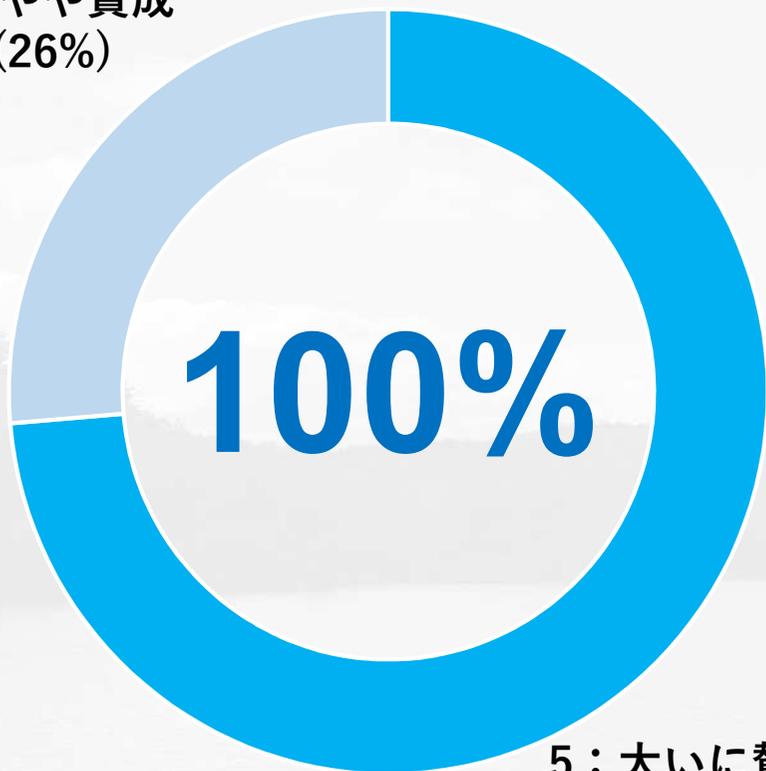


# 「焚火台で美濃焼体験」のコンテンツ化に参加者は全会一致で賛成

## 参加者アンケート結果（賛否）

（有効回答数：19）

4：やや賛成  
（26%）



5：大いに賛成  
（74%）

美濃焼体験について、土岐市のキャンプ場ならではの体験コンテンツとして、今回のような七輪と焚火台を使った美濃焼体験を提供していきたいと思っておりますが、どうお考えですか。  
（1：大いに反対、2：やや反対、3：どちらでもない、4：やや賛成、5：大いに賛成）

## 参加者の声



土岐市

当日に焼き上がった作品を手にはできないことがイベントなどで焼き物を扱う際の課題であった。あのような方法で焼き上がりを手にできたことは美濃焼体験の第一歩としては最高であった。



卸商社

焼成を体験できる、炎を見ながら自分なりの商品に仕上げていく体験が他の陶芸体験と異なり良かったと思うし、ちょっとした作家気分が味わえると思った。



土岐市

美濃焼を作る火とキャンプの火は親和性が高い。体験を求めるキャンパーには受け入れられるコンテンツだと思う。



窯元

初心者でも火の番をしたら焼けてしまう手軽さに加え、想定外の素敵な作品が出来るワクワク感がある。



大学生

美濃焼の形を作る体験はしたことがあっても、焼く体験はしたことがなかったので面白かった。

# 七輪・焚火台を使った美濃焼体験

## 実験結果

	火器	ブローア	温度
I	七輪	—	~850°C
II	七輪	✓	900°C
III	焚火台	✓	814°C
IV	焚火台 フローガ	✓	1170°C

## 土岐市立陶磁器試験場考察

- ◆ フローガ(二次燃焼器具)とブローアの使用により高温部では1000°C以上を計測(赤外線放射温度計計測)し、陶土であればある程度焼き締まる(=水漏れしない)状態が可能。
- ◆ 織部などの釉薬を楽しみながらぐい呑み、箸置きなど本格的な美濃焼体験が考えられる。
- ◆ ブローアを使用して数回焼くと高温(1200°C程度)になるため、七輪や焚き火台が劣化するリスクを懸念。
- ◆ 耐火レンガで窯を作れば丈夫なハードで繰り返し使える。
- ◆ ブローアを使用しない場合は、時間をかけてゆっくり体験することができ、低下度釉薬または無釉の土器で土鈴やミニ植木鉢、置物など、飲食器以外の作品を作ることが可能。
- ◆ 急加熱や急冷による破損を軽減するためには、土に耐熱土(ペタライト)を混ぜ、火に徐々に近づけていく焼き方が良い。



七輪



焚火台



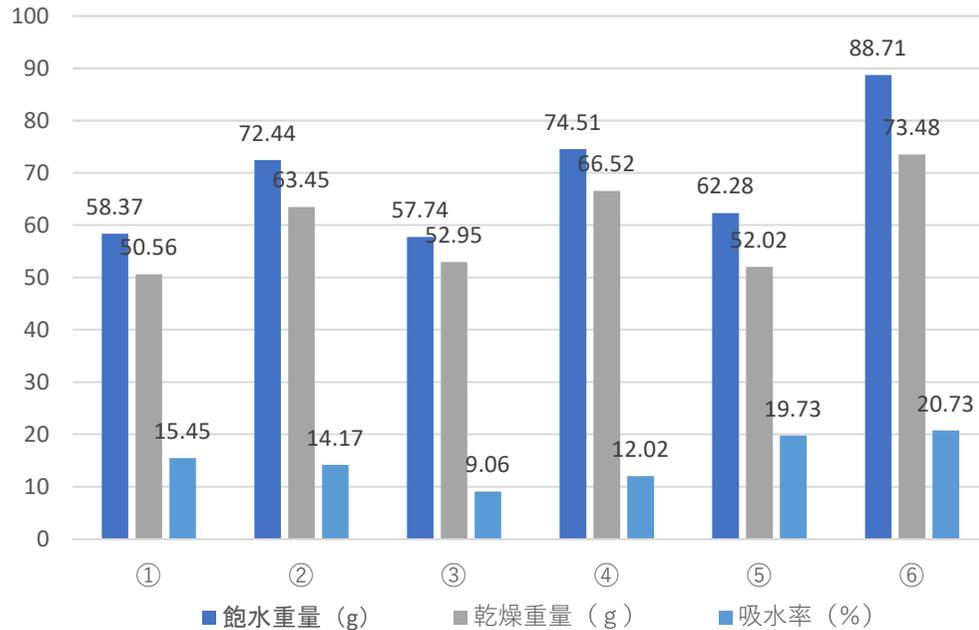
焚火台とフローガ(二次燃焼器具)

# 釉薬や土の種類、つくるものによっては焚火台を使った美濃焼体験は可能

## 調査結果

美濃焼体験で焼成を行った6つの陶磁器を持ち帰り水が染み込んだ量を計測

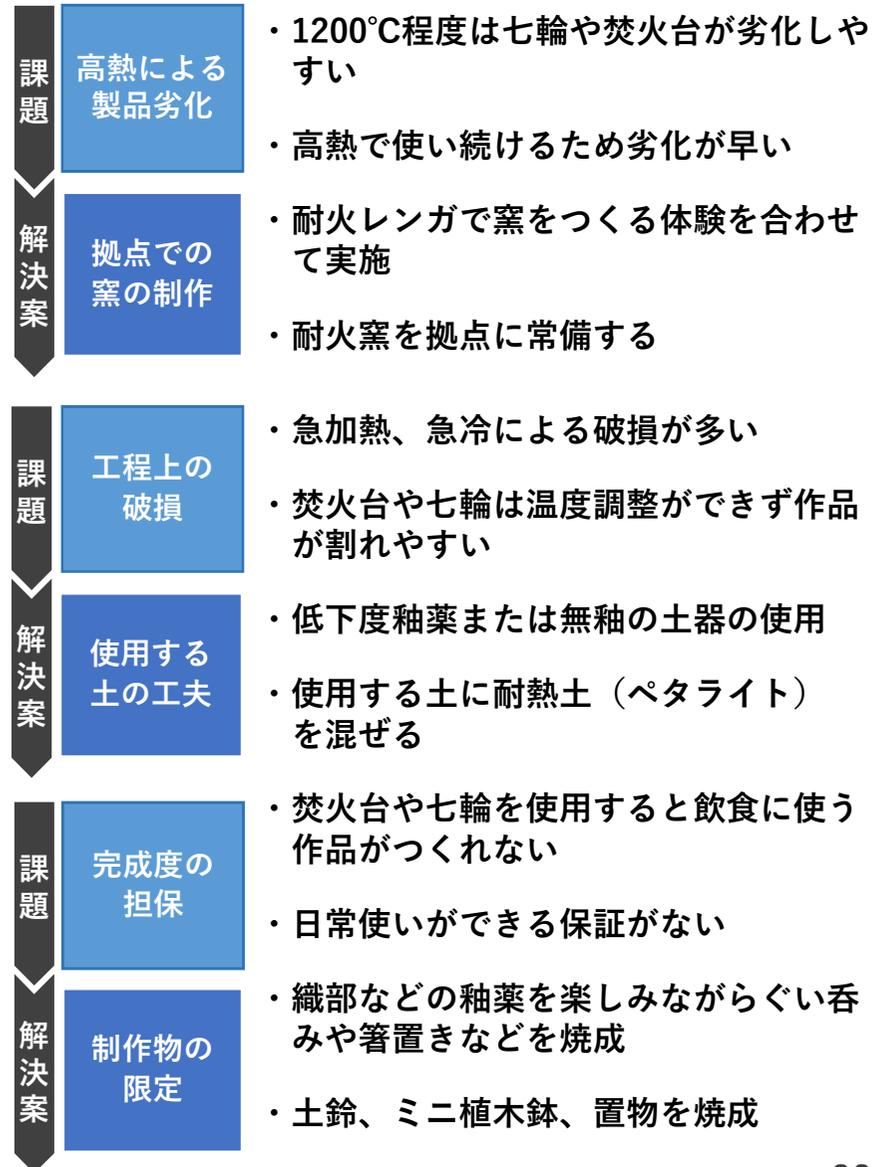
(吸水率はよく焼けていれば磁器土=0% 陶器土=約3%~10%)



### 結果

- ③は吸水率が低く、飲食器に近い
- 一般的な食器用の陶磁器より吸水率は全て高い
- ⑤と⑥は素焼きの状態です素地が出ている
- 飲食器としての使用は難しい

## 陶磁器試験場による課題と解決案



# ただし、焼成温度の上げ方、完成度や作業負荷の面で改善は必要

## 参加者が感じた課題と解決策の方向性

### 焼成温度の 低さ

- 焼成温度の上げ方に課題が残ると思う。
- ブロワーは必須と思う。
- 出来る限り文明の利器を使わずに焼くのであれば、風を送り込むシステムをもう少し考えた方が良くと思う。(団扇や火吹き棒など)
- 風を送り続けなければならない、失敗が多いなど、満足度に直結する課題が多かった。作れる物のレベルを下げたり、焚火の温度で作れるようにしたりと工夫が必要に感じた。
- バーナーを使って焼成温度を上げるパターンと団扇で煽っても低温釉薬の器を焼き上げるパターンとあっても良いと感じた。

### 完成度の 担保

- 器が結構割れやすいことは課題。お金を払って参加した場合、割れずに持って帰りたいと思う。金額次第？
- 全体的には不十分の作品が多い。道具や焼く時間、釉薬の種類、作品の大きさなど十分に検討していく必要がある。

### 工程上の 作業負荷

- より安定した焼成ができる道具類があると良いと思う。送風し続けて温度を上げることももちろんだが、焚火台の場合、器の上部の熱効率が悪いので、陶器を焼くときに使用する「さや」を加工して作ると良いかと思う。
- 夕食の横で火を付けているだけで焼き上がるなど、もう少し簡単にできないか。
- BBQなど何かをしながら傍らで焼き物を焼けば、焼くまでに時間がかかっても気にならないと思う。

### 安全面の 配慮

- 温度を上げる為にブロワーを使うので、火の粉が飛び散り特に小さいお子さんは不安が残る。焚火台と常設の炉の様な物もあって良いかと思う。
- 季節や気候に左右されるので、一部に屋根などがあると良い。

# アウトドア会議（美濃焼体験振り返りワークショップ）

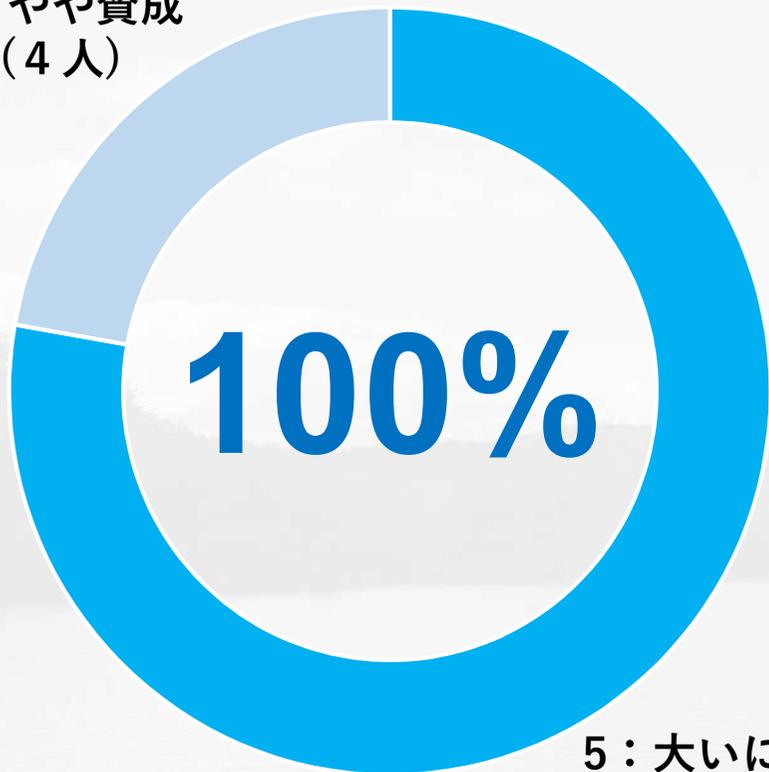


# アウトドアミーティングの場として地元住民が広く活用できそう

## 参加者アンケート結果（賛否）

（有効回答数：18）

4：やや賛成  
（4人）



5：大いに賛成  
（14人）

ランチミーティングについて、アウトドアにはあまり興味がない土岐市の住民や企業の皆さんにも新たなキャンプ場を活用してもらえるよう、今回のランチのようにテントやタープの下で、手軽に「アウトドアミーティング」をして頂ければと考えていますが、どうお考えですか。  
（1：大いに反対、2：やや反対、3：どちらでもない、4：やや賛成、5：大いに賛成）

## 参加者の声



土岐市

アウトドアでミーティングをすると、なぜか積極的に発言できる雰囲気になれた。

違った環境でのミーティングは、いつもと違うアイデアが浮かびそう。  
交流の場としての活用も期待できると思う。



窯元



卸商社

好き嫌いもあるかと思うが、自然の中で行うことによって、精神的、心理的にもいつもの会議とは異なった意見などが出やすいのではないかなと思う。

外の空気を吸いながら会話をすることでお互いがリラックスでき、楽しくできた。



大学生



NPO団体

外でのミーティングということで、心の開放感が良い結果をもたらす気がする。美濃焼関係者ばかりでなく、異業種でのミーティングも可能なのではと思う。

# アウトドアに抵抗感のある方でも気軽に試してもらえる工夫は必要

## 参加者が感じた課題と解決策の方向性

### 偏見や 先入観

- 土岐市は保守的な人が多いので、新しいことや興味のないことには関心を示さないことが考えられる。でも、楽しいことだと感じれば活用すると思う。
- 苦手な方も先入観だけで、やってみると意外に楽しかったなどの発見もでき、新しい顧客層を拾うこともできるかと思う。
- まずは知ってもらおう。

### 全天候型 への対応

- 天候、気温、風などの環境によってミーティング利用の是非が分かれると思う。
- 天気が良かったことも影響しているかもしれないが、アウトドアでミーティングをすることは、なぜか自由に、積極的に意見を言いたくなる雰囲気になれた。

### 設えの 工夫

- 常設であれば、簡単に会議も始められるので、私も色々な会で使用したいと思った。
- 食事がもう少しキャンプ感のある食事だと最高。もう少し上質な個室風の方が利用者が増えそう。

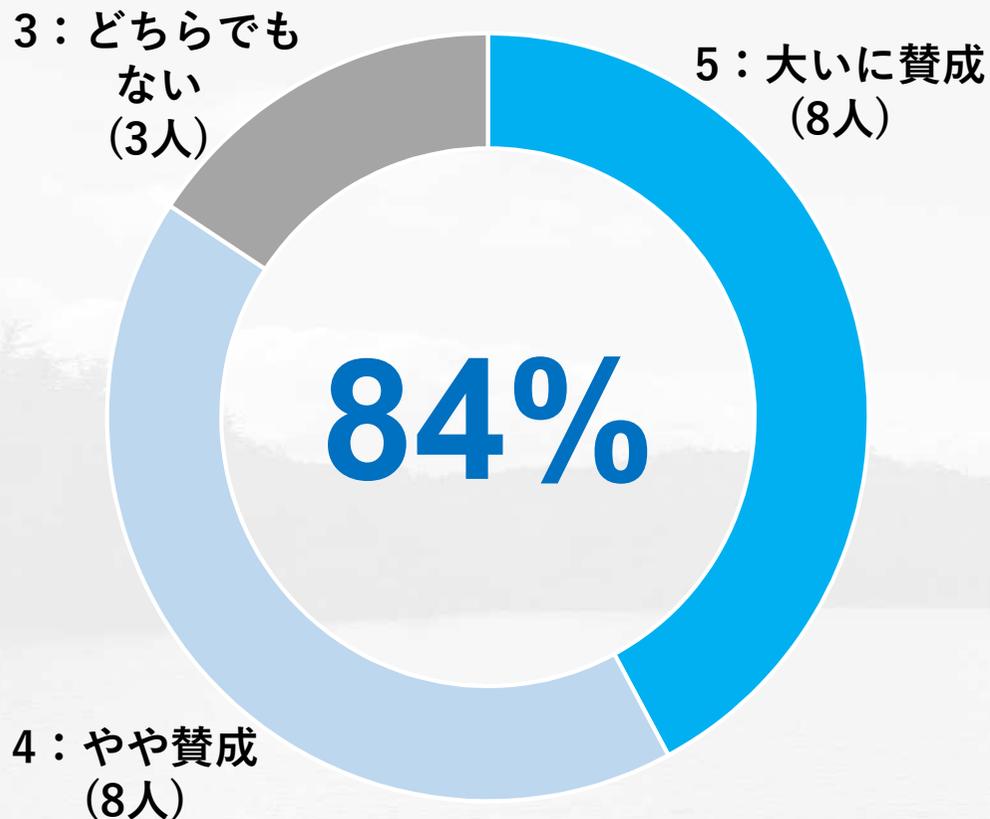
# 定林寺湖エリア一帯の広域散策



# 定林寺湖散策は魅力的であるが、地元住民への配慮が必要

## 参加者アンケート結果（賛否）

（有効回答数：19）



定林寺湖エリアについて、今回は定林寺湖への散策、および、湖畔でのコーヒータイムを実験してみました。新たなキャンプ場に訪れた人々が、定林寺湖にまで足を運んでもらうことについてどうお考えですか。

（1：大いに反対、2：やや反対、3：どちらでもない、4：やや賛成、5：大いに賛成）

## 参加者の声



土岐市

ロケーションが非常に良い。豊かな自然を知っていただきたい。



窯元

山の散策は道もしっかりしているし、色々なルートもあるので地図等を作成して、今後の観光コンテンツとして活用できると感じた。



卸商社

私たちが湖にたどり着いた際、車が通ったり、**地域の方が散歩していたりする姿が見られたので、キャンプに来た人たちで湖を占領することは良くないと感じた。**



大学生

見晴らしの良い場所で飲んだコーヒーは最高であった。**地元住民の隠れスポットなので、広めてしまうと心配もあると思う。**



窯元

一定数は必ずマナー違反をする方がいるので、対策をどうするか、**地元との密な話し合いが必要。**

# さらに安全性確保の難しさや高付加価値化の観点でも課題は残る

## 参加者が感じた課題と解決策の方向性

### 安全面の懸念

- 道中の安全管理が課題であるため、常設の利用者は難しいと思われる。
- キャンプ場から定林寺湖までの散策道路を安全性の面からもう少し整備する必要がある。今回のルートにも水でずくずくの箇所があったが、当地を知らない方でも楽しく歩いてもらうには、道や古い看板の撤去、サインなどの再整備が必要と思った。
- 定林寺湖までの道のりは整備が必要と感じた。また、荒れてしまった土地を再生できれば良いものになると思う。
- 山道が急であった。子どもたちは楽しいかも知れないが、多くの人が行けるかあやしい。
- 今回のように、体力的に可能な人は散策、高齢者の方、障がいのある方には、定林寺湖への送迎が必要になると思う。夜になると猪が出るなどの心配もある。
- 長野県や岐阜県の奥地・高原と比較してしまうと、生えている植物などの空気感が異なるので非日常感が足りない印象を受けてしまった。湖畔での休憩スペースは今の自然を残しながら、少し手を加えて整備をすると、もっと素敵な非日常空間ができるのではないか。
- 天気の良い日の湖畔でのコーヒータイムは、コーヒー好きの私には最高であったが、コーヒーが無かったらどうだったかは疑問が残る。
- 湖周辺の間伐や休憩所の整備(ウッドテラスや芝生スペース)も必要。また、湖の水位をもう少し高くしないと景観も良くない。石彫刻(ペトログラフィ)はあの程度ではインパクトが弱い。縄文時代の住居跡の復元など古代のロマンを想像させるような仕掛けを考える必要がある。
- 一定の料金をもらい、ウォーキングアクティビティとコーヒー、ウォーキングアクティビティとヨガなどを組み合わせて、定林寺湖の自然を体験してもらおうと思う。
- 当地には他にも湖やルートがあることから、一般コース、健脚コースなど自分に合ったルートを選択して楽しんでもらえるようになればと思う。

### 散策自体の魅力

### マナー遵守

- 一定数は必ずマナー違反をする方がいるので、対策をどうするのか。希少種が自生していることの周知と保護、密猟者にはどの様な対応をするか。キノコ山のシーズン中に今回のルートは歩けるものの、道を外れると問題になる。地元との密な話し合いが必要。
- 心配な点は、ごみの置き去りや植物の盗難など。

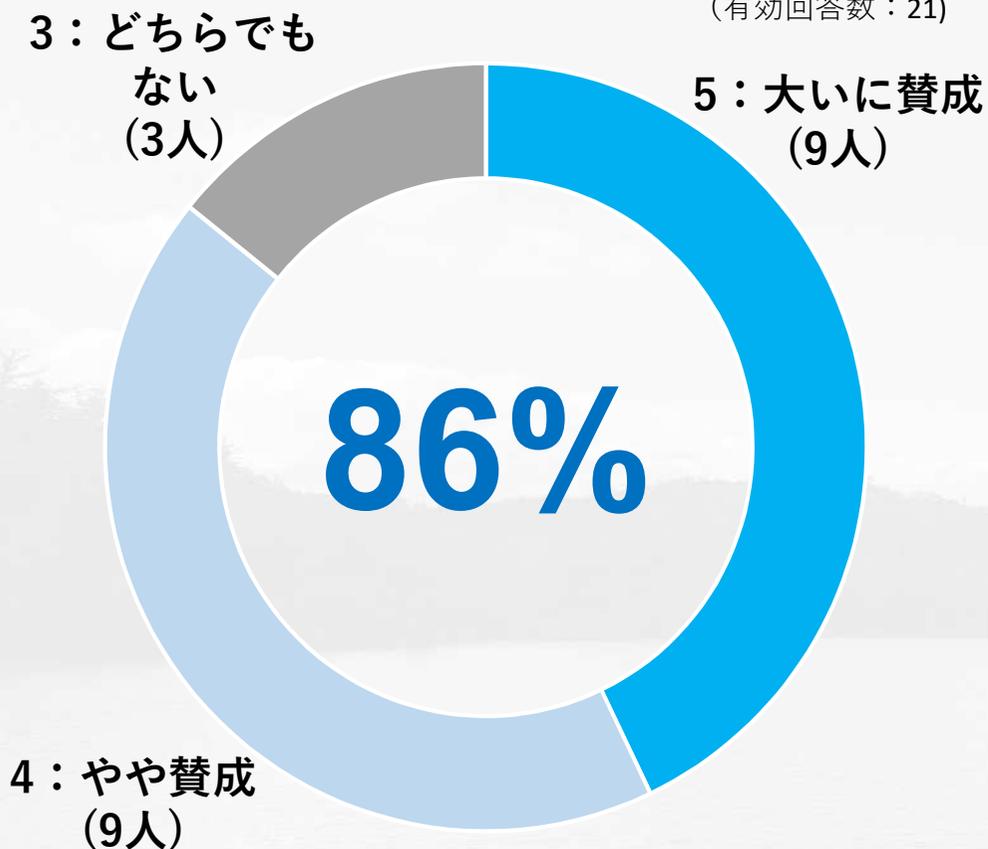
# 飲食店組合と連携した美濃焼BBQ & 自然薯とろろごはん



# 「美濃焼 × BBQ × 地元飲食店」は土岐らしい地方創生として必要

## 参加者アンケート結果

(有効回答数：21)



土岐市のキャンプ場らしい食事として、飲食店組合様ご協力のもと、美濃焼とSnow Peakのギアを活用したBBQ、および、とろろご飯をご提供しました。

これらの食事をメニュー化することについて、どうお考えですか。

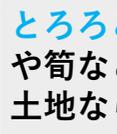
(1：大いに反対、2：やや反対、3：どちらでもない、4：やや賛成、5：大いに賛成)

## 参加者の声



土岐市

土岐市のお店から食材を提供してもらうことは、地域活性化となるので良いことだと思う。



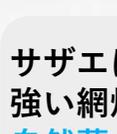
NPO団体

とろろご飯がとても良かった。個人的には、きのこや筍などの季節の山菜や鮎などの川魚もあると、その土地ならではの食材を楽しめるのかなと思った。



窯元

来てくれた方に地元料理を食べてもらうことはとても嬉しい。ジビエなどがあっても良いと思った。



大学生

サザエは焼くのに時間がかかったが、もっと火力の強い網焼きなら問題ないと思った。  
自然薯がすごく美味しかったのでまた食べたい。



土岐市

キャンプのギアで焼いた食材を、美濃焼の器で食べてもらえるだけ仕掛けを作っていきたいと思った。

# そのうえで、土岐ならではの食事や食材は深掘りの余地あり

## 参加者が感じた課題と解決策の方向性

### 自然薯の 活用の 工夫

- BBQと自然薯を掛け合わせる提供方法をもう少し検討する必要がある。焼肉に自然薯をかけて食べたが、微妙に感じた。
- 自然薯はお肉には微妙であった。
- とろろの味が薄いので肉の味に負けてしまい、相乗効果としての良さが分からなかった。今回食べてみてわさびが欲しいと思った。とろろの生かし方はもう少し研究が必要と思う。
- 自然薯は白米と麦飯、麦飯入りでどれが合うかテストしてみてもは。あおさ海苔をふると、さらに美味しくなる。濃い自然薯を海苔に巻き、油で揚げると美味しい。

### その他の 食材の 可能性等

- きのことや筍などの季節の山菜や鮎などの川魚もあると、その土地ならではの食材を楽しめる。可能ならまわりの山や畑から自分で採れると満足感があがりそう。このあたりには五平餅を焼く家庭もある。
- 土岐市は食に関してはあまり名物がない地域であり、水産、畜産、農産物もこれという物が無いが、山菜やへぼ(地蜂)、イナゴは古くから良く食べる地域であるので、こうした食材を混ぜることができないか。肉類は近在のポーノポークか鶏肉を使う。海魚、貝類は元々無いので使用しなくても良いのでは。五平餅も近在でも良く食べるので秋田のきりたんぼ風に取り入れては。
- 地元の食材を生かすのもその地ならではの楽しみとなるので、BBQメニューによってはジビエなどを取り入れられたらより良いかと思う。また、季節にもよるが、春、秋にかけて定林寺から鬼岩できのこ類が採れる。自然で採れたきのこを堪能するのも良いと思うし、アクティビティでキノコ探しなどのツアーがあっても良いと思った。
- ジビエなどがあっても良いと思う。
- むかご(自然薯の実)を素揚げし塩をまぶして食べるのも美味。
- 夕食にはならないが、五平餅を焼くなどは楽しく美味しいので、土岐市らしくて良いと思う。
- 五平餅とか焼けたら楽しいかも。
- 美濃焼の活用の面では、もう少し美濃焼とは何かを掘り下げた方が良いと感じた。何を使うことが美濃焼の価値を認識してもらえることが重要な部分だと思う。
- 土岐市は食の器の美濃焼が有名ではあるが、食す文化が欠如している。新たに発掘・開発してもらえれば。